

ふくてっく発足 20 周年に関するアンケート報告



1、ふくてっくが 20 周年を迎えるにあたり、記念事業をおこなうことは？

①賛成	27
②どちらでもよい	10
③反対	0
④選択なし	1

2、記念事業を行う意義があるとするば、以下のどれを支持しますか？（上位から順に 3 つ選んでください。）

	1 位	2 位	3 位
④選択なし	2	3	6
①これまでの足跡（10 年あるいは 20 年）をふりかえる機会になる	8	4	7
② 20 年の区切りを迎えた現在のふくてっくを確認し合う機会になる	9	10	4
③現在のふくてっくを社会に発信する機会になる	2	4	8
④みんなで、これからのふくてっくを考える機会になる	14	12	3
⑤これまでお世話になった方たちを招いて感謝することができる	3	1	2
⑥旧会員も呼んで一緒に祝う、懐かしい再開の機会や過去のふくてっくを知る事ができる	0	2	5
⑦現在の会員だけで祝う 一区切りついた祝賀の機会になる	0	2	0
⑧その他	0	0	3

3、記念事業を行うとするば、形態について盛り込むべき内容は？（上位から順に 3 つ選んでください。）

	1 位	2 位	3 位
④選択なし	2	7	11
①記念誌の発行	4	4	4
②飲食を伴う宴会	6	4	5
③記念講演	10	4	4
④記念コンサートなどの催し	1	6	2
⑤来賓あいさつ	0	1	1
⑥なにか形に残るもの	1	5	6
⑦なにかの社会貢献活動を行う	9	6	5
⑧その他	5	1	0

4、記念事業を行うとするば、事業の準備等に加わるお気持ちはありますか？（1 つ選んでください）

④選択なし	木村 多加緒、 光川 環代、 和泉 秀子、 磯田 吉郎
①加わることは難しい	
②企画段階からの参加は難しいが、できる範囲で協力する	秋岡 安、 池端 一義、 稲住 泰広、 大橋 延行、 鎌田 伊津子、 荻田 保志、 川北 武志、 後藤 秀樹、 古場 道夫、 阪田 凱彦、 佐藤 宣三郎、 立溝 和行、 寺岡 春恵、 長岩 正一、 中北 清、 林田 良行、 松本 隆次郎、 吉本 昭、 大塚 祐司、 佐藤 裕子、 樋口 文彦、 山本 尚子
③企画段階から参加して、事業内容をつくりたい	有馬 定夫、 小川 忠雄、 佐久川 尚士、 清水 麗子、 杉浦 史郎、 曾我部 千鶴美、 畑 俊治
④その他	岡 道信、 西川 朋生、 春岡 須磨子、 山田 隆夫

1、ふくてつくが 20 周年を迎えるにあたり、記念事業をおこなうことについて

『①賛成』の理由

秋岡 安	20年続いたという事実を皆でお祝いしたいし、一つの区切りとしてかつ次の10年目指しての何らかの行事はすべきと思うからです。
有馬 定夫	色々な活動・運動が長期的になり複雑になってきます。その時には、一度立ち止まって原則に戻る必要があります。その意味からふくてつく 20 周年を迎える時に記念事業をやる必要があります。せっかく 20 周年を迎えたので今後は 30 年 50 年 100 年と継続してやっていたいとは思いませんか。
池端 一義	みんなでこれからの「ふくてつく」を考える機会になる
稲住 泰広	ふくてつく 20年の歴史を振り返り、まだ会員になって新しい方々や古参も含め、改めて ふくてつく を、見直す良い機会だと思います。
大橋 延行	20年という長い期間、続けて来るには、それなりの皆の“思い”また“力”が必要であり、今日まで続けてこられたことは、素晴らしい事と思います。20年という節目を迎えるにあたり、記念事業を行うことは、会員一人一人が今後の活動の在り方、関わり方を今までのことを振り返り、もう一度考える良い機会になると考えます。
岡 道信	はじめだから。20年続くと言うことの大切さを素直に喜ぶため。意義などどうでもいい。0歳児が20歳になったらほんくらでも成人式を行うのと同じ。わが子は理屈抜きにかわいい。
小川 忠雄	20周年という記念を開催するか？しないか？を確認している現状がとても不思議な気がします。以下の様な設問で内容を検討するのは良いですが、開催については必然ではないでしょうか。
鎌田 伊津子	特になし
苅田 保志	なし
川北 武志	私自身は、入会年度が浅いので、何も貢献していませんが、20年という月日に重みがあると思います。
後藤 秀樹	既に10、15周年記念行事を重ねており、20周年も節目であり、開催するのは意義のあることだと思います。
古場 道夫	会員の皆様の努力により、会が発展し20年がたちました。今後のためにキックオフの会が必要と思います。又、NPO 法人として会が発展し社会的役割を果たせるような会を運営して下さい
阪田 凱彦	大きな一つの区切りですから、又新たな旅立ちの為、30周年を目指して！
佐久川 尚士	せっかくの節目。日頃はいくつかの活発な部会活動メンバー間の交流、意見交換は盛んであるが、それ以外は定例会で顔を合わすのみ。その中にはふくてつくに参加はしたいが、これからどうしていきたいか明確な考えを見出せず悩んでいる者もいるのではないと思う。しかし、意識の高さの違いや参加目的は様々でも、その幅広さを失えば、専門家集団による限定的な活動で、次第に視野が狭く偏っていく恐れがある。その為この20周年事業を、もう一度裾野を広げるための好機ととらえ、目的を持った者のみの集まりではなく、活動に参加することを通じて何かを得られる場を持つ懐の広い会として、現会員の積極参加のみならず新規会員の獲得のきっかけになれば理想的である。
佐藤 宣三郎	節目の一つですが、これまでの振り返りこれからの10年を展望した取組を考える機会にできれば良いのではないですか。その中で、ふくてつくの基本理念を思い起こし発展させる方向が考えられれば良いですね。
島村 英子	記念行事を行う事は賛成です。20年は、会にとっても節目であり当初から会に在籍されている有馬会員がおられると言うことが一番の理由となります。正会員の入会時期や当会への関わり方等により実感が異なるからこそすべきだと思います。意識の高さの違いや参加目的は様々でも、今回の活動に参加する事で何か必ず得られる場になると思いますし自分もその機会にしたいです。
清水 麗子	5周年・10周年記念事業には、何らかの形で会員が主体的に関わっていたことは、記念誌などから伺い知る事ができる。花火を打ち上げて綺麗だったという記憶も良いが、打ち上げるまでのプロセスに何らかの形で会員が参加し、ふくてつくという同じフィールドに立つ会員同士であるという意識を共有し『今』『これから』を考えるきっかけになる記念事業であれば、意義があると思う。
立溝 和行	継続は力なり、20年間事業を続ける事は大変な事です。喜ばしい事ですので賛成です

寺岡 春恵	私は2年前からふくてづくに参加させていただき東大阪部会を中心に・・という東大阪部会のみでの参加で、実はかなり恐縮しております。正直もう少しいろいろな企画に参加したいと思いつながらなかなかなか……。今回のアンケートに先立ち先の「ふくてつく」の歩みを拝見させていただき実際にトンカチを持って手摺の取付などをされていたこと、5周年記念の手作り手摺の事などの活動をととても羨ましく思います。手の届く活動をされ身近に手摺を使われる方々との触れ合いがあったのだらうと想像できます。最近参加させていただくようになった物として「ふくてつく」の歩みを感じる事が出来るきっかけの様な気がして「賛成」とさせていただきます。
長岩 正一	何か事業をやり、区切りをつけるために賛成。
西川 朋生	① 20年間福祉活動を目指して継続できたこと、社会貢献ができたことへの誇りの表現として必要ではないでしょうか。② 宴会とかセレモニーとして実施する必要はないと考えます。③ 但し、関係する分野の多くの人に来て、見ていただけるようなスタイルが良いのではないのでしょうか。④ 人集めのためにも「講演会」は欲しいし少しネームバリューがあった方が良く考えます。⑤ 時間は、何時から何時までのフリー来場というスタイルではいかがでしょうか。⑥ ふくてつくの活動資料や活動風景写真や、過去の活動資料などを展示したブースを自由に見ていただき関係者が思い出つてお客さんたちと自由に歓談できるスタイルが良いのではないのでしょうか。(お茶、コーヒー、菓子ぐらゐは必要)⑦ 何か不足はみんな検討。
林田 良行	バブル経済時代は余りボランティアに関心がなく生きてきましたので、先輩たちがどのような活動をされたのか、これからはどのような方向で事業計画が有るのか無いのか知りたいので。
春岡 須磨子	ひとつの節目としてな何らかのかたちで記念事業を行うことは良いことだと思います。ふくてつくの発足時の思いを知ることにより、今後自身がどのように活動に参加していきたいのか考える機会となるのではと思います。
松本 隆次郎	20年の区切りを迎えた現在のふくてつくを確認し合う機会になる。現在のふくてつくを社会に発信する機会になる。
光川 環代	今のふくてつくは何か違うものと感じています。といっても私が変化しているのかも知れませんが、でも、20年を迎えることによって未来に向かった新しいふくてつくは作ることは賛成です。
吉本 昭	最近、記憶と記録ということが注目されています。人間一生の忘れられない記憶を記録として残すことが大切であり、ICによって記録の手段は高いのですが、福祉に関する記録の場所をふくてつくで見出せなかったかと思ってきました。記念事業はそんなことを訴えられるものなら良いと思っています。
中北 清	次項にあげる意義(とくに④③①)があると思われるから。ただ、単なる「飲食を伴う宴会」を行うことに先走ったり、企画や準備に多くの会員が関わらないようなことならやる意味はないし、むしろ実施することに反対する。「なぜ・なんのために」が先行すべきです。労力をかけるから意味があるのだと思います。楽をしないから楽しいはず。

『②どちらでもよい』の理由

大塚 祐司	私自身が入会してまだ日も浅く、20周年と言われてもピンと来ないところがあります。しかしながら、設立初期から活動をされている方々には感慨深いモノが有ることでしょう。寄って、何か20周年事業と思われることは当然のことだと思います。以上の理由により、①でもなく③でもない②を選びました
佐藤 裕子	20年続いたボランティア団体そのものが素晴らしいと思います。特別に記念的なことを行わずに進むことも良いのではないかと思います。今までの事は現在の土台というか、過ぎたことで、振り返って何か生まれることでもないように思います。今、そして、これからの発信していくことが大切に思います。
杉浦 史郎	記念事業の内容しだいでまる。単なるパーティーだけなら反対で、外部に対してNPO「ふくてつく」の活動をPRする意義ある内容であれば賛成。
曾我部 千鶴美	・節目を大切にすべきだから。・ふくてつくのこれからの10年を考えるため。・実りある30周年を迎えるため、今、しなければならぬことを考えるため。「どちらでもよい」とした理由は、節目のイベントはどのような形でも良いと思います。ただ、何のために、ふくてつくが、どのようにするか……。昨年、全会員で検討し作成した『ふくてつくロジックモデル』を見直し、ふくてつくを取り巻く環境の変化や会員の変化等を考慮しながら、記念事業をおこなう目的を明確にするべきだと思います。
畑 俊治	特に理由はありませぬ。

樋口 文彦	1/3 以上の人が「やりたい！」という強い希望があれば容認します。
山田 隆夫	ふくてつくに関わってからの時間が短く、記念事業を行うことに実感があまりないです。
山本 尚子	最近大きな活動もしていないと思うし特にしなくてもいいのでは・・と言うのが本音ですが、「反対！」というまでではありません。

『①選択なし』

木村 多加緒	殆ど活動もしない私は意見を述べられません。述べても無責任になります。
--------	------------------------------------

2、記念事業を行う意義について

『⑧その他』への記入

中北 清	⑤～⑦は先にこだわる問題ではない。①～④の何を基本にするかで自ずと決まるはず。
樋口 文彦	⑤⑥には、多少礼を失するくらいはあるが、今後、社会の現状にどう対応していくか検討する事の方が大切と思う。
有馬 定夫	但し、ふくてつくを誹謗したり足蹴にして辞めた人は除く。宇賀神さんは招待する。

3、記念事業を行うとすれば、形態について

『⑧その他』への記入

中北 清	できることを選ぶのか、すべきことを選ぶのか？事業に臨む会員の意思が問われる。
樋口 文彦	来賓の挨拶は必要なし。記念誌の発行は労力に対して得るものが少ないと思う。20 年の区切りを迎えた現在のふくてつくを確認し合う方向に向かうのであれば、どのようなことでも良い。
川北 武志	具体的には、思い付かない。
佐藤 宣三郎	20 年を 5 段階に区切って 5 人ぐらいの人によるパネルディスカッション
佐藤 裕子	ボランティア活動はその時間関わってきた人がいたことが大事なことに思います。続けてこられた人のお話を聞きたいと思います。

4、記念事業の準備等に加わるお気持ちについて

『④その他』への記入

中北 清	※意義ある記念事業になるなら、③と答えたいところだが、それには膨大なエネルギーを要する。私は、ふくてつくにおいてより差し迫った重要課題をもっており、このために 1 年の足踏みはできないので、主導的役割は務まりません。状況に即して②が限界です。企画は、会員の総意に委ねます。ただ万一、さして意義のない記念事業になるようなら、答えは①になります。注意深く進行を見守らせてください。
西川 朋生	どの段階でも結構です、参加してできる事はやります。
岡 道信	私に出来る事はすべてする。
山田 隆人	出来る事が有れば参加したい。

5、入会されてから今日までのふくてつくをふりかえっての感想。

秋岡 安	参加して心地よい集まりです。しかし、安住することなく発展していく組織でないといけないと思います。少しでもそれに貢献できるようにしたいです。
有馬 定夫	私にとって ふくてつくは良い居場所であったと思います。色々な職種の違う人がおられ、新鮮な感じをしたものです。「去っていく人は追わず」「来る人は拒まず」はふくてつくとしては、良い習慣だと思います。今後はこれからの世の中で必要は求めがあれば、私達の力量の範囲内で満たしてあげたいと思います。チャップリンの言葉「機械は貧富の差を作り、知識を得て人類は懐疑的になった。知識より思いやりが必要である。人々は罪なくして苦しんでいる。人々よ失望してはならない。」
池端 一義	色々あって纏める事が難しいですが、「福祉」という大テーマについて様々な事を学べる。残念に思うことはなかなか「NPO」活動(内容・組織)の主が何なのか判らない。
和泉 秀子	居心地の良い楽しい会に参加でき、続けてこられたことを嬉しく思います。入会動機とは違った形での活動ではありましたが、今の役割に満足しています。しかし、体力的なことを考え、今後は活動量を増やすことの無いように気をつけていきながら長く続けていきたいと思っています。
磯田 吉郎	色々勉強になり良かったですよ。これからも 頑張ってください。 私は 何かと他の用事が増えて来て、満足に参加ができなくなりましたので、皆さんにお任せします。
稲住 泰広	私にとって ふくてつく は、生き方を変えるきっかけを、与えてくれた重要な活動の一つです。さまざまな人生経験を持った方々と、利害関係なしに一緒に活動できる場合は、他にそうそう無いと思います。自分のできる範囲で、(仕事のように極限までの無理をせずに)活動できて、少し社会貢献(ほとんどは自分の満足の為)できる、 私には、かけがえのないNPOです。20年前 10年前とふくてつくの社会的役割や要請も変化してきています。ふくてつくは、常に前を向いて変化に対応できるしっかりした組織作りが課題で、それに向かって、みんなで歩んで行きましょう。
大塚 祐司	良かったこと: 建築に携わる者として、と言うより社会の一員として、福祉について考えることが少しは出来るようになったかかもしれません。また、会員の熱心な活動が、自分には刺激になってます。 残念に思うこと: 決してメンバー間の思いが、一つでないこと。時には正反対の意見があり、それで活動が中途半端に終わってしまうことがままある。良かったことの項目に関係しますが、会員の熱心な活動が、自分自身の劣等感の様なものを喚起することがあります。
大橋 延行	東大阪部会で活動する事を主な目的で入会させて頂きましたが、現在は本業多忙によりあまり参加できておらず、申し訳なく思っております。しかし、昨年は第3者評価チームの末席に参加させて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。私が現在関わっております重度身体障害者福祉施設での活動にも役立っております。もう少し積極的に活動し、自分のスキルを上げたいのですが、中々難しい現状です。少しでも、機会を見つけて、参加していきたいと考えております。
岡 道信	自分と住む世界が違う人が多く刺激になった。勉強になった。やりたいこと障害者雇用に関するお手伝い。以上。 感謝。
小川 忠雄	幾多の貴重な経験をさせて頂いています。残念という事ではないが、少しずつ会員の声が聞こえなくなってきた事が気になります。フランクな会であり続けたいと願う。
鎌田 伊津子	特になし
荻田 保志	なし
川北 武志	実際の活動が出来ている事は、とても有意義に感じている。コミュニティービジネスの幅を広げたいと思うが、なかなか実行が出来ていない。
木村 多加緒	未記入
後藤 秀樹	入会は平生6年で約18年お世話になっております、自分でもこのように長きにわたり参加できたのも、会員のみなさんとの交流を通じ社会貢献(ボランティア)に参加できたことだと思います。月1回の定例会では福祉を知る良き研修の場として大いに学ぶことができました。特に企業人として会社の倒産という失意の中にあつた私にとっては、新しい1歩が踏み出せたのも会員各位のいつも変わらぬ人柄、前向きな姿に接することが一番の葉でした、はや18年もう参加者のうち、有馬会員、杉浦会員の次の在籍になり、20周年の節目をますますみなさんの健康、ご多幸を思う今日この頃です。今後も健全なNOP法人ふくてつくとしてボランティアマインドを高め、参加者の学び・交友の場として発展することを期待いたします。

古場 道夫	よかった事は、杉浦さん、荻田さんと知り会えた事。 残念な事は 、福祉サービス第三者評価の調査活動でがんばれなかった事。 これから何をしたいか、皆様に迷惑をかけないように会に参加したい。
阪田 凱彦	いろいろの方の職種のいろいろの方の意見を聞くことが出来、大変勉強になり、また、視野も広がったように感じます。
佐久川 尚士	これまで、社会貢献どころか会全体、部会についてもほとんど参加させて頂きだけで、何も貢献できていないと思います。しかし少なくともふくてつくに入会するまでは、福祉という言葉を経営上の手段の一つとしか考えていなかったことが自分の中で大きく変化し、人として良く生きるためのキーワードと化しました。何よりこれだけ幅広い知識と経験をお持ちの諸先輩方と共に活動し、意見を交わし、酒を飲み交わすことは他では考えられません。自分自身の生活にも仕事にも大きな刺激となっていることは間違いありません。相変わらずこの中では何ができるのか、何がしたいのか模索を続けるのみで、どんどん取り残されながらもついて行くのが精一杯ではありますが、これからのふくてつくが存続する為に盛り上げて行く事だけは、人一倍頑張りたいと思います。
佐藤 宣三郎	良かったこと :自分の生きる社会以外の社会人との交流が出来、その人たちの福祉観を知り、自分の生き方の参考になることが出来、自分の活動に多に協力を得ることができたこと。 少しばかり残念なこと :ボランティアを問う機会が少なくなってきたのではないかと。今後もふくてつくと共に歩きたいと思っています。
佐藤 裕子	ボランティアな気持ちの人達の活動が 20 年間続け、更に勉強会も続けてこられたことが非常に素晴らしいと思います。建築・設計という人が、住む所のことが、どんなに大切なことか年をとって初めてわかったように思えます。 これからは、青少年の集える家というか、空間づくりのような活動をしたいと思っています。余り具体的ではありませんが、そういうことで勉強していきたいと考えています。
島村 英子	入会当初は、無我夢中で参加し学びたいという気持ちでいました。参加できる機会があれば積極的に参加しました。学習会や部会活動で学んだ事も多く、自分自身の生活や仕事にも大きな刺激や力にもなりました。只、今は少しスランプに入っています。自分自身の能力不足からふくてつくの会員として何もできない事が歯がゆく、つまらなく思っています。初心に戻り出来る事からするしかないと思っています。今いえる事は、みんながそうであるように、ふくてつくの中に自分の歩んだ道があると思います。精一杯頑張りたいと思います。
清水 麗子	良かった事 :ふくてつくで活動することで『福祉』の考え方を学び、私自身は人として成長させてもらっています。現在進行形です。 残念に思う事 :活動の目標を決めても、自分の未熟さゆえになかなか前進できないこと。 これから :私の活動スタンス「あせらない」「期待しない(求めすぎない)」「楽をしない」「目立たない」「無い物ねだりをしない」「いつも一緒」→「あ・き・ら・め・な・い」
杉浦 史郎	物づくりの出来る工房(木工・金属加工)が欲しい。
曾我部 千鶴美	多種多様なメンバーの方たちの生き方や考え方・・・など等、多くの事を学び、刺激をもらい、今後の生き方について考える事ができました。これが「ふくてつく」の強みだと思うのに、縦割りになってしまう、横断的組織づくりが十分に行えていないように感じます。第三者評価を学び、どのような組織でも理念や基本方針が大切だと知り、「ふくてつく」の理念は・・・?そんな話を聞いたかも知れないが・・・?というお粗末な状況なので、これからしたいことは、全員全員の『趣味は幸せづくり 特技は笑顔づくり』『ふだんのくらしを幸せに』を再確認できるような、横断的組織をどのようにすればつくることのできるのか・・・?まず、自ら働いて考えてみたいと思います。具体的な案がなくして申し訳ありません。
立溝 和行	私にとって唯一の知的交流機関でしたので、色々な情報やおもしろい人達にめぐり会えた事に、感謝しています。住宅改修の工事が激減した事です。営利目的では無い勉強としての仕事をさせて貰いました。まだよく分かりません。。。。。
寺岡 春恵	実際ほとんど部会活動しか(これも中途半端ですが・・・)出来ておりませんが、まずは、とにかく部会の方々とお知り合いになれたこと、とてもよかったです。また、これまで経験したことのない検証活動では大変勉強させていただいております。これからのこと・・・以前からお話されておりました東大阪の空き家利用。この事業に参加できればと思っています。
長岩 正一	未記入

<p>中北 清</p>	<p>よかったこと ふくてつくのおかげで福祉課題に気づかされ、建築士として取り組む視点が得られ、本業にも波及した。また、20年近く活動する中で、新しい自分を獲得し、居場所を拡大することもできた。公私に亘り、大いに育てていただいたと思う。活動ミッションも社会変化に即して形を変え、次々に発展し続けていることに満足と誇りを覚える。</p> <p>残念に思うこと ミッションの拡大とともに、どうしても取り残されがちな側面も出てくる。結果的に、創世記に見られた“会のまとまり”が薄らぎ、パワーの結集が難しい。また、メンバーのボランティア概念も決して一様ではなく、社会的行動が一定レベルを超えるに至らない。ボランティア自らがボランティアを軽視する傾向がある。どこまでできるか、どこまですべきか、限界は本業優先の事情にあるのではない。システムとしての市民活動の限界を覚える。</p> <p>これからしたいこと 市民活動の限界(壁)を突破するためのシステムを実現したい。人生、このへんでいいかと安住せず、どこまでも前進したい。一方で初心にも立ち戻り、福祉機器と住宅のものづくりを再興する。悠久の目標は原点に帰るもの。</p>
<p>西川 朋生</p>	<p>① 参加できたことに意義を感じております。今までとはちがった分野で大いに勉強になりました。楽しい皆さんと知り合えたことだけでも幸いです。②何にでもつきまといますが、全て何かをするにはコストとの関連、仕方ないことだと考えながらもこれからどのようにふくてつくで活動できるのか、今イチバン考え悩むところです。</p>
<p>畑 俊治</p>	<p>利害関係が無い仲間ができました。福祉についていい勉強になりました。特に欧州福祉研修旅行は自分をかえました。ふくてつくを通じていろんな友人知人ができました。</p>
<p>林田 良行</p>	<p>定年後、老人ホームの非常勤として頑張っていますが、今年の3月で退職して、今後は両親の介護生活のサポートや、他でボランティア活動と思っています。NPO ふくてつくさんに入会して余り役立つことはしていませんが、人の為に役立ちたいので、私も元気な間は活動していきたいと考えていますのでよろしくお願ひいたします。</p>
<p>春岡 須磨子</p>	<p>入会して1年は、例会のみ参加していましたが、2年目から東大阪部会に参加させて頂くことにより、いろいろな方と関わることで自身の糧となっています。自発性に欠けていたと思います。これからボランティアマインドを持って自身でできる事を探すことが私の課題です。</p>
<p>樋口 文彦</p>	<p>良かったと思うが、自分の現在の活動との距離が計りきれない。現在の実績・経験を積みながら徐々に枠組みを確定していこうと思う。私にとって「ふくてつく」の会員になっている意味は、社会的信用を得る事。種々の意見を得られること。学習(一般的福祉に関する)がおこなえること。人間関係(プロジェクトを遂行する上で)が多少なりとも得られそう。</p>
<p>松本 隆次郎</p>	<p>1)良かった事:福祉の理解が少しでも解ってきている事。2)残念な事:会員が知らないうちに辞めている事。木工部廃止に賛成したが、理事会で承認されたことから本部預かりとなりホッとしている自分。3)今後:自分の出来る範囲で協力したい。</p>
<p>光川 環代</p>	<p>私は木工部に参加させて頂きました。今は機械を扱う事もなく、何が寂しい感じ。福祉用器具部も、もう一つ活動されてないのが残念です。老人天国の社会です。お年寄り、又子どもにも伝えられる新しい商品づくりをしたいです。</p>
<p>山田 隆夫</p>	<p>ふくてつくの活動の方針に対するアウトカムを明確に提示していくことに関与し、活動の社会的価値を鮮明にする役割が、少しでもできればと考えています。</p>
<p>山本 尚子</p>	<p>きっかけは住宅改修の機会を得たからからです。それは達成できたと思ひ感謝しています。10年以上在籍しておりますが、最初は休んでいても特にお声がかかるわけでもなくほったらかしで、でも久しぶりの参加でもいつもと同じように迎えてくれる空気が心地よかったです。自分のできる範囲でいいからみんなで協力し合うという空気も(私の勝手な受け取り方かもしれませんが・・・)居心地が良かったですが、正直最近少し居心地が悪いように感じております。自分で積極的にあれをしよう!これをやりたい!というもの特になく、目の前のことで自分にできることだけさせて頂こうと参加していましたが、そういう姿勢がいけないと言われているように思うのですが・・・。</p>
<p>吉本 昭</p>	<p>私の入会したのは平成12年福祉住環境コーディネーター受験のため、ふくてつくの事を知り、受講したのが縁ですが、入会后数年杉浦さん三浦さんが健在な頃が一番充実していたと思います。身体障害者の会員も一向に増加しないのも残念ですが、何分にも後期高齢者となつてからは体調が優れず例会にも出られなくなっています。何か協力出来る事、これは私がしたことと遺せるものがあればと思ひ何ら果たせずにいます。畑先生には何日も親切にして頂き感謝しております。清水さんには何時も変わらず事務方として頑張ってもらえるのは立派です。</p>